

### 研究会の視点

- 単元構想に関連して
  - ・学習材との関わりを通して、どんなことを目指していくのか、単元の学習課題を子ども自信が意識・自覚することができていたか。
  - ・子どもは学習材に対して思い・願いをもち主体的に関わっていたか。
- 授業づくり(本時の学びどころ)に関連して
  - ・「本時の学びどころ」と関連して、子どもはその対象に対して気付いたり新たな見方や思いをもったりしていたか。
  - ・「本時のしかけ」は機能していたか。また、適切であったか。
  - ・深まりのある話し合いが展開されていたか。またそのための素地や指導が見られたか。

#### 1年2組(渡辺級) 「つうがくろたんけん ありがとうみつけない」

##### 【担任の意図】

通学路の八百屋さんにインタビューした動画を見せることを通して、通学を見守ってくださる方々のやさしさや温かさに気付き、もっと関わりたいという思いをもてるようにする。

##### 【授業の様子】

一人ひとりが「おはなしたんけん」で聞いたことを伝え合い、八百屋さんのインタビューをきっかけに、自分たちの登下校を振り返ることができた。1時間の中で、やることが多すぎ、インタビューの動画を生かし切ることが難しかった。



#### 3年2組(飯田級) 「かもん山公園しょく物調さたい」

##### 【担任の意図】

掃部山公園の植物を調査した結果を話し合うことを通して、今まで知らなかった植物の魅力に気づき、戸部のまちの人に伝えたいという思いを強くもつ。

##### 【授業の様子】

戸部のまちの人が来たいと思えるような掃部山公園の植物の魅力は何かという問いかけに対し、花の特徴や時期、咲いている様子など様々な視点から考えることができた。情報量が多く、本当に伝えたい魅力への取捨選択をするまでには至らなかった。



#### 4年2組(遠藤級) 「間ばつ材リサイクル大作戦」

##### 【担任の意図】

譲り受ける間伐材を無駄なく使うことができるか話し合うことを通して、他の木材ではなく、「間伐材」を活用することへの意思を強くもつ。

##### 【授業の様子】

無駄なく使うことができるかという問いかけに対して、残った間伐材から役に立つものを作ったり、木の魅力を伝えるために活用したりする等、アイデア豊かに考えていた。ベンチにどれくらい必要で、どれくらい余るのかという疑問から、ベンチのデザインを考えるという課題が見えた。しかし、「間伐材」の意味や価値に迫った思いを膨らませるまでには至らなかった。



## 5年1組（吉川級） 「5-1シアターへようこそ！」

### 【担任の意図】

Sさんのパネルシアターから、自分たちの目指したいパネルシアターを「作る」と「演じる」の視点で話し合う事を通して、特に「演じる」側として取り組んでいくことを具体的にイメージする。

### 【授業の様子】

前半の話し合いでは、パネルシアターを楽しみたい、早く取り組みたい、Sさんのすばらしさを真似したい、という意識が見られた。Sさんの映像を見た後の話し合いでは、パネルシアターやSさん自身にもっと焦点化していけるようにしたい。子ども達が考えているのに教師が話しすぎると意識が離れていく。子ども自身の話したい思いをもっと大事にしていきたい。



### 講師の先生から

<島本先生>

指導法の研究ではなく子どもをみとる視点がある。だから子どもたちがかわいい。先生が指示しなくても自分たちで授業をしていく。これが大切。子どもに全幅の信頼を置く。どこまでできるのか、どれができないのかを明確に持つことが大切。

<後明先生>

「まなびどころ」そこまでできないと子どもはできないのか。と教師が自問する必要がある。できることはやらない。子どもに任せる。気づかせる感覚を他の教科で育てていく。

<竹田先生>

子どもたちの読み取りの力がよかった。国語とは違うので細かいところは気にしない。間伐材そのものを大切にすることが大切だと子どもたちが理解している。

写真をたくさん使っているのがよかった。記録を写真と一緒に残していく。かるたづくりは3年生には難しい。花札はどうか。

<大内先生>

活動や体験を通してじぶんとのかかわり。登下校も子どもにとって生活。安全に登下校できるようにするのは大切だが、人、施設、自然も含めて感じていく。子どもたちにはいろいろな気づきを話させて気づかせていくとよい。エピソードを語ることが大切。

<倉澤先生>

1年生の子どもは大人が切り口をもって学ばせることは無理がある。言語化できないけれど、体で表現する。生活科は食前酒である。生活科の学習をすることによって、人とかかると学びが深まる。という思いが持てたらよい。